

鳴門のレンコンをアカミミガメから守る取り組み

佐藤章裕¹・近藤誠志¹・澤田英司²

¹ 徳島県東部農林水産局 鳴門藍住農業支援センター

² 徳島県立農林水産総合技術支援センター

Project of protecting lotus from Red-eared sliders in Naruto, Tokushima prefecture.

By Akihiro SATO¹, Seiji KONDO¹ and Eiji SAWADA²

¹ Agency for eastern Agriculture, Forestry and Fisheries Tokushima prefecture.

² Tokushima Agriculture, Forestry and Fisheries, Technology Support Center.

徳島県のレンコンは茨城県に次いで栽培面積 450ha で全国第 2 位の産地である。産地は吉野川下流の低湿地にあり、周辺を河川が流れ、河川に連結した水路がレンコン田を取り囲むように整備されている。カメが生息するには好適な環境であると考えられる。アカミミガメによるレンコンの被害は鳴門市の特定地域約 100ha で新芽が食害される事例として発生しており、被害の大きなレンコン田では収穫量が 30%減少するケースもある。被害は平成 20 年頃から出始め、アカミミガメが急速に増え大型化した個体が多く見られるようになった頃と一致している。

被害は水路の法面構造と関係しており、傾斜がありカメが這い上がりやすい法面であると周辺のレンコン被害が大きくなる。平成 24 年から被害対策として、農水省の国補事業等を活用し行政、JA、生産者が一体となり、被害のある特定地域内でアカミミガメの捕獲・駆除に取り組んでいる。捕獲は農家、JA委託のパート、行政がカニカゴをレンコン田や水路に設置して行っている。捕獲されるカメはアカミミガメ、クサガメがほとんどを占め、アカミミガメは調査の後冷凍し有料で焼却処分し、クサガメは元の環境に放流している。平成 27 年までの 4 年間に 7,683 匹のアカミミガメを捕獲・駆除した(表 1)。捕獲の効果は新芽の食害が減ることはもちろん、大きなカメがいなくなることで確認できる。農家がレンコン田で継続的に捕獲しているデータを見ると平成 26 年まで平均体重は減少しており捕獲効果を確認できたが、平成 27 年は増加した。その増加は平成 26 年の 2 回の大洪水による周辺からのカメの移動が原因でないと推測された。

アカミミガメの捕獲・駆除によりレンコンの食害は減っており、対策の効果は上がっているが、環境の変化も現れている。ザリガニの増加(レンコン栽培には穴による漏水でマイナス)、水路のヒシの増加、近年減っていたオニバスが水路に生えてきたなどである。

表 1 アカミミガメの捕獲数(年度ごと)

年度	捕獲数(匹)
H24	2,863
H25	997
H26	1,782
H27	2,041
合計	7,683